様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年　 ５ 月 ２４ 日現在

機関番号：１５３０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2013～2015
課題番号：２５３８１２５９

研究課題名（和文）英語リーディングにおける同一指示・「言い換え」表現の理解を促すための教材開発

研究課題名（英文）Developing teaching/learning materials for understanding different words and phrases used to refer to the same referents in reading English texts

研究代表者
高塚　成信（Takatsuka, Shigenobu）

岡山大学・教育学研究科（研究院）・教授

研究者番号：７０１３２６５２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は，日本人英語学習者が，英語リーディングにおいて，修辞学上同一表現を避けて「言い換え」がなされている同一指示・「言い換え」表現を理解する能力を高めるために，中学校・高等学校英語教科書を初め英文テキストにおいて使用されている同一指示・「言い換え」表現のパターンを明らかにするとともに，中高６年間の英語学習を通じて同一指示・「言い換え」表現を理解する能力をどのように系統的に指導・学習することができるのかを，同一指示・「言い換え」理解指導・学習用テキスト『中学１年生から高校３年生まで６年間で学ぶ英語の同一指示・「言い換え」表現―自分の英語力で何とか理解できる力をめざして―』を作成して示した。

研究成果の概要（英文）：This study has demonstrated that many Japanese learners of English have difficulty understanding different words and phrases used to refer to the same referents. Based on an analysis of the different words and phrases used to refer to the same referents in their textbooks and other reading materials, the study has also produced a material for teaching and learning different words and phrases used to refer to the same referents, from Grades 7 to 12, with the aim of helping learners develop their ability to understand texts better.

研究分野：English language education

キーワード：同一指示表現　「言い換え」表現　指導・学習用テキスト

１．研究開始当初の背景

本研究開始の背景には，日本人英語学習者に関する次のような２つの課題がある。

(1) 同一指示・「言い換え」表現に対する理解能力の低さ

大学の教養教育で英語の授業をしていて感じることは，大学生の英語リーディング力が低下してきたことである。これは，中学校・高等学校において，オーラル・コミュニケーション能力の育成に力点が移っているので仕方のないことかもしれない。しかしながら，日本における外国語としての英語(EFL) という学習環境下においては，読むことの必要性が減じたわけでなく，むしろ高まっていると言ってもよい。

英語リーディングにおける学生の問題点の一つは，修辞学上同一表現を避けて「言い換え」がなされている同一指示・「言い換え」表現の理解ができないことが多いということである。

例えば，次の英文において，文 3 の The parents と home が，それぞれ，先行する文 2 の A couple と an unidentified eastern European country との同一指示・「言い換え」表現であるということが分からない学習者が多く見られる。

1 A story reported last week from outside London seems to require the judgment of a modern-day Solomon. 2 A couple from an unidentified eastern European country came to England for the birth of their children, conjoined twins joined at the hip and sharing most of their major internal organs. 3 The parents sought hi-tech medical care unavailable to them at home, but after hearing what specialists had to offer, decided to forego any medical treatment for their newborn daughters.（以下略）
(A Modern Solomon's Baby? EthicsMatters, September 18, 2000)

(2)同一指示・「言い換え」表現理解のための体系的指導・学習の欠如

以上の課題にも関わらず，中学校・高等学校６年間の英語教育を通じて，同一指示・「言い換え」表現の指導・学習は体系的に行われることはなく，指導・学習用のシラバスやテキストも存在しない状態である。その結果，日本人英語学習者は，英文理解において，同一指示・「言い換え」表現の指示物を特定できず，読解に躓くことが多い状況にある。

したがって，同一指示・「言い換え」表現にはどのようなパターンがあるのかを明らかにするとともに，その分析に基づいて，中高６年間の体系的な同一指示・「言い換え」表現理解のための指導・学習のシラバスとテキストを作成することは，以上の課題を克服する上で，非常に重要であると思われる。

２．研究の目的

そこで，本研究の目的を，次の２つに設定した。

(1)同一指示・「言い換え」表現のパターンの特定

日本人英語学習者が，EFL リーディングにおいて遭遇する同一指示・「言い換え」表現のパターンを特定すること。

(2)同一指示・「言い換え」表現理解を促す指導内容と指導方法の開発

同一指示・「言い換え」表現のパターン分析に基づいて，日本人英語学習者の英文リーディングにおける同一指示・「言い換え」表現の理解能力をどのようにすれば向上させることができるのか，中高６年間のスパンで英語指導・学習における同一指示・「言い換え」表現指導・学習のシラバス，テキストを開発すること。

３．研究の方法

以上の目的を達成するために，本研究は，次の２つの研究方法を用いた。

(1) 同一指示・「言い換え」表現のパターンの抽出

同一指示・「言い換え」とはどういう言語的操作なのかを，中高６年間の教科書本文などから例を抽出するとともに，パターンを特定する。

(2) 同一指示・「言い換え」表現理解を促進させるための学習・指導用教材の作成

抽出，特定した同一指示・「言い換え」表現のパターンの分析に基づいて，中高６年間の一貫した同一指示・「言い換え」表現指導・学習シラバスおよび具体的な指導・学習用テキストを作成する。

その際，各学年末およびコース末（高校３年修了時）に到達すべき同一指示・「言い換え」表現理解能力レベルを設定するとともに，到達判定テストも作成する。

４．研究成果

(1) 研究の主な成果

① 同一指示・「言い換え」表現のパターンの抽出

・同一指示・「言い換え」表現のパターン

先行研究に基づきながらも独自に，以下の同一指示・「言い換え」表現のパターンを抽出・設定した。

パターン　１：代名詞（←普通・固有名詞）
パターン　２：the+名詞（←a+名詞）
パターン　３：the+上位語
（←固有名詞，下位語，数字）
パターン　４：the+形容詞+上位語
（←固有名詞）
パターン　５：代動詞（←動詞）
パターン　６：固有名詞（←普通名詞）
パターン　７：下位語（具体例，固有名詞）
（←上位語）
パターン　８：間接的表現（←直接的表現）
パターン　９：統合指示物
パターン１０：one(s)/such/so
パターン１１：同意語（同意表現）
パターン１２：否定された反意語
パターン１３：ダイクシス
パターン１４：節（→句）・句（→節）
パターン１５：婉曲・比喩表現（直喩・隠喩・換喩・提喩）
パターン１６：序数（←基数）
パターン１７：that（←前出語句・文）
パターン１８：this（→後続文）
パターン１９：形式主語・目的語 it
（→後続 to，that）
パターン２０：英語（→日本語），日本語（→英語）
パターン２１：品詞を換える（動詞→名詞）

・同一指示・「言い換え」表現の語彙・文法

中学校および高等学校の英語教科書を初めとして英文テキストから，以上の同一指示・「言い換え」表現を言語的に実現するのに使用できると思われる語彙および文法項目を，同一指示・「言い換え」表現のパターン，学年毎に抽出し，同一指示・「言い換え」表現理解のための学習・指導教材作成の基礎データとして利用した。

② 同一指示・「言い換え」表現理解のための指導・学習テキストと同一指示・「言い換え」表現理解能力レベル到達判定テストの作成

生徒が６年間で学習する語彙・文法によって，どのように同一指示・「言い換え」表現が構成されているのかを具体的に示すとともに，高校卒業時において達成されるべき同一指示・「言い換え」表現理解能力を「同一指示・「言い換え」表現の殆どのパターンについて，高度なものでも，理解することができる。教科書本文の多くの英文を「言い換え」のパターンを適切に使って，よい簡単な表現に言い換えることができる。また，情報や（自分の）考えを伝えるとき，「言い換え」のパターンを適切に使うことができる」とし，逆算して，各学年末に達成すべき同一指示・「言い換え」表現理解力の到達目標を設定した。

次に，それに向かってどのような内容で学習・指導すればよいのかを，先に述べた教科書から抽出した同一指示・「言い換え」表現とその語彙・文法事項を参考にしながら，教材を作成した。

また，２１の同一指示・「言い換え」表現のパターンが，スパイラルにユニットに配置し，繰り返しと発展によって定着が図られるよう工夫した。

なお，設定した同一指示・「言い換え」表現理解力の各学年の到達目標は，以下の通りである。

Grade１（中学１年生）
同一指示・「言い換え」表現とはどのようなものか理解している。
同一指示・「言い換え」表現のパターンのうち，いくつかについては，基本的なものなら，理解できる。

Grade 2（中学２年生）
同一指示・「言い換え」表現のパターンのうち，いくつかについては，基本的なものなら，理解することができる。
同一指示・「言い換え」表現のパターンのうち，その他のものについても，どのようなものか理解している。

Grade 3（中学３年生）
同一指示・「言い換え」表現の殆どのパターンについて，基本的なものなら，理解することができる。
同一指示・「言い換え」表現のパターンのうち，いくつかについては，より高度なものでも，理解することができる。

Grade 4（高校１年生）
同一指示・「言い換え」表現のうち，いく

つかについては，より高度なものでも，理解することができる。

Grade 5（高校２年生）
　同一指示・「言い換え」表現のより多くのパターンについて，より高度なものでも，理解することができる。

Grade 6（高校３年生）
　同一指示・「言い換え」表現の殆どのパターンについて，より高度なものでも，理解することができる。

　同時に，各学年およびコース末の到達目標に達しているかどうかを判定するための学年末同一指示・「言い換え」表現理解能力レベル到達判定テストを作成した。

　なお，これらテキストおよびテスト問題は全て，『中学１年生から高校３年生まで６年間で学ぶ英語の同一指示・「言い換え」表現―自分の英語力で何とか理解できる力をめざして―』として PDF ファイルに納めた上で，WEB で公開する予定である。

(2) 得られた成果の国内外における位置づけとインパクト

　今回の研究を通して得られた成果のインパクトは，何と言っても，中高６年間を見通して，繰り返しながら発展的に学習ができる体系的な同一指示・「言い換え」表現理解のためのテキストが作成されたことである。
　従来，散発的に指導されるに過ぎなかった同一指示・「言い換え」表現理解の指導を，英語学習の初期から体系的に行うことの重要性と可能性が示されたことの意味は大変大きいと思われる。

(3) 今後の展望

　以上のような研究成果をより有効に活用するためには，以下の２つが課題となる。

① 同一指示・「言い換え」表現理解のための指導・学習用テキストの有効性の検証と修正

　今回作成した同一指示・「言い換え」表現理解のための指導・学習用テキストとテストについては，一部パイロットテストを実施し問題点を洗い出し修正に結びつけたものの，実際の使用までには至らなかった。
　今後は，教材とテストを実際に中学校・高等学校で使ってもらい，教員と生徒からフィードバックを得た上で，各ユニットにおける同一指示・「言い換え」表現の実例，説明，練習問題および学年末，コース末の同一指示・「言い換え」表現理解能力レベル到達度判定テストの項目を修正する必要がある。

② 同一指示・「言い換え」表現理解のための指導・学習方法の有効性の検証と修正

　各学年末，コース末の同一指示・「言い換え」表現理解能力レベル到達度判定テストの教育現場での使用を促すとともに，テスト結果データを収集・分析することを通して，中高６年間における同一指示・「言い換え」表現理解のための指導・学習のシラバス，指導・学習の在り方に必要な修正を加え，より高いコミュニケーション能力育成のための指導・学習方法を考える必要がある。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計２件）

①高塚　成信　(2014).「４技能統合と新たな技能への挑戦」,『全国英語教育学会第 40 回研究大会記念特別誌』, 317-320.

②Sato, R., & Takatsuka, S. (2016, in press). The occurrence and the success rate of self-initiated self-repair depending on the grammatical difficulty of triggers. *TESL-EJ*, Vol 20.

〔学会発表〕（計０件）

〔図書〕（計０件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計０件）

○取得状況（計０件）

〔その他〕

６．研究組織

(1)研究代表者
高塚　成信（TAKATSUKA SHIGENOBU）
岡山大学・大学院教育学研究科・教授
研究者番号：70132652

(2)研究分担者
なし

(3)連携研究者

なし